

一歩ずつ前へ

■食べて応援プロジェクト「おうちでレストラン」

5月15日から始まったこのプロジェクトは、コロナ禍により直ちに苦境に陥った飲食業全般への支援として企画されたものです。

プロジェクト内容を簡単に紹介すると次のようになります。

①プロジェクトに参加している市内飲食店でテイクアウトや出前で商品を購入する。②専用はがき台紙に購入額200円につき1個のスタンプを押してもらう。③スタンプ20個がたまったら専用はがき台紙をポストに投函する。④2千円分の商品券が手元に届く。⑤商品券を市内商店で使う。

参加店については店先の幟や市ホームページ等でご確認ください。これまで知らなかったお店を知る機会です。あわせて仕事や家事などで忙しくしている皆さんの息抜きにもなるかと思えます。多くの市民の皆さんの参加をお待ちしております。なお、期間途中でも商品券がなくなれば終了となりますのでご注意ください。

■プロジェクトに期待する効果

今回のプロジェクトのコンセプトは、困窮する市内飲食店を応援しようというものです。ですが、このプロジェクトのポイントには別にあります。それは中心的

プレーヤーを市民としているところで

そもそもこのプロジェクトが機能するためには市民の協力が必要です。ならば皆さんの中にある応援してあげたいという気持ちを刺激する仕組みにすれば、ということになります。そこで考えたのが、市民の皆さんに使ったお金の半額分の商品券を直接お渡し、飲食店だけでない他のお店も利用してもらおうというものです。

飲食業は裾野の広い商売です。コメ、野菜、肉、魚、お酒などの食料品のみならず、生産者、卸売業者、あるいはチラシ製作やタクシー利用などあらゆる分野が関係してきます。飲食業への支援はそれ以外の業種への効果も期待できるものなのです。

ちなみに、今回のプロジェクトでは、単純計算で3千万円の商品券は約3倍の乗数効果を生み、事業全体で市内を循環するお金の総額は約2億円と見込んでいます。

■広く・深く・長く、丁寧に

6月からは第2弾として、飲食店以外への支援も開始します。加えて、コロナ禍により苦しむ市内出身の大学生等についても、4月末に実施した緊急学生アンケートの結果を参考にしながら支援を行うことにしています。

前回コラムで述べましたように、このコロナ禍は長期戦であり、持久戦です。今後も、状況を深く観察しながら、必要な支援をピンポイントで政策化していかねければならないと考えています。

最後に、この原稿を書いている5月22日時点の様子ですが、正直3月から続いたコロナ禍の第1波はある程度収まった雰囲気にあります。実際そうなのかもしれないませんが、油断はできません。第2波も予想されます。ですので、行政としては緊張と緩和の両にらみで一歩ずつ前進させていかなければならないと思っています。

市としては、なかなかタイムリーに市民にお知らせする有効チャンネルを持ち合わせていませんが、それでもなお市広報やホームページ、SNS、臨時チラシ等の手段を使いながら、取り組みや情報等を適宜お知らせしていきたいと考えています。市民の皆さんのご理解をお願い致します。



にかほ市長
市川雄次

